

インフラの 町医者

全8回の4
をどう育てるか

第9回建設トップランナーフォーラムより

林道を地域の生命線に

山本社長



「林道を地震発生時に地域の生命線にできる」と取り組みの重要性を語った。

第2部「建設業の力で地域活性化」では、「森林再生と建設再生」と題して山善(神奈川県)の山本善一氏、「佐渡島フードで地域おこし」と題して廣瀬組(新潟県)の廣瀬俊三氏、「農業支援ビジネス展開による地域貢献」と題して日本青年会議所建設部会の永宗大典氏(広島県)が事例を発表した。

林道のメンテナンス結果には、対応が必要な箇所は具体的な修復方法も記載。早急な措置を実施すべき箇所は、調査を担当した業者が特命で施工する。このことが、協会のメリットにもつながっているという。

廣瀬組(新潟県佐渡市)の廣瀬俊三社長は、鮮魚のまま島外に出荷が難しい魚介類を加工して、島内外の土産物屋、百貨店、ホテルなどに販売している。

同社は、これからもチーム佐渡島の一員として、生産者の顔が見える、人工添加物なしなど、佐渡の安心・安全な水産物を有る。

チーム佐渡島として挑む

廣瀬社長



港工事に携わる身として、同島の漁業衰退を危惧していたという。

2009年に地元漁協と建設業協会が連携して取り組んだ事業を契機に、11年に水産加工会社を設立し、漁協と協力しながら加工と販売をはじめた。営業活動、

展示会参加などを積極的に、全日空の国際線で機内食として採用されるなど、販路も広まったが、安定的に売れるヒット商品の開発、資金面などの課題も残る。

市民グループ「チームたまり場 ひまごんち」(広島県尾道市)の永宗大典代表は内装と成果御の家業を生かし、地域の再生に挑む。生まれ故郷の広島に挑む。生まれ故郷の広島に挑む。生まれ故郷の広島に挑む。

サイクリストの宿泊施設に

永宗代表



美父の永宗敏氏が営む内装のサンストップと青果物を取り扱う村上八重松商店はいずれも因島に本社を置く。ひまごんちとは同商店を創業した曾祖父から

見て「ひ孫」の「うち」を意味する。レモンなどの柑橘類で有名な因島は、農家の高齢化が進み、安定的な栽培が困難になっている半面、海道を横断するサイクリストの聖地として注目を集めている。

(地方建設専門紙の会)